

悲鳴をあげている地球環境 ～もっと、もっと、もったいないを習慣化しよう!～



- (1) 主催: 熊西市民センター(八幡西区) **たらばる・わくわく塾「公開講座」**
(2) 日時&場所: 2024年(令和6年) 6月29日(土) 10:00~12:00 熊西市民センター (多目的ホール)
(3) 講師: 金子良憲 北九州市男女共同参画審議会市民委員 元九州大学農学部非常勤講師
(4) 参加者: 18名 (女性 16名、男性 2名) (アンケート協力者 18名、回収率100%) 他 職員2名



- ★ 「自然災害」ではなく、「気候危機」だ! 「コロナ禍」も“人災”であることを改めて認識する機会となりました。
- ★ 地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ!!
- ★ 人間と生態系(熊、猪、猿・・)との距離が縮まって来ている → 「人里」~「里山」~「奥山」の“すみわけ”が焦眉の急!
~生態系の回復が重要課題!(国連の2021~2030年の環境目標)~
- ★ 生ごみの「コンポスト化」に積極的に取り組もう! (アンケート結果ではコンポスト講座希望者が数人)

主催：熊西市民センター 令和6年度 たらばるわくわく塾 公開講座

「悲鳴をあげている地球環境」

～もっと、もっと、もったいないを習慣化しよう！～

2024年（令和6年）6月29日（土）

10:00～12:00

北九州市男女共同参画審議会市民委員

元九州大学農学部非常勤講師

北九州ESD協議会会員

金子良憲



<説明事項>

1. 自己紹介
2. 今日、重点的に説明したいこと
3. 悲鳴をあげている地球環境 ～地球の実態～
4. 悲鳴をあげている原因は“地球温暖化”です ～ その対策は炭酸ガスの削減～
5. 地球がもたない！
 - ① 自然災害ではなく、気候危機は人災！ ～自分の命は自分で守ろう～
 - ② コロナ禍も人災！
 - ③ 地球は人間だけが住むところではありません
～熊、イノシシ…等の生態系も共生していることを改めて考えましょう～



◎ 生態系と人間の距離が縮まって来ている

こんな説明をしました！

6. 気象学の専門家(IPCC)の3つの特別報告書 (IPCC:気候変動に関する政府間パネル)
 - ① 1. 5℃特別報告書
 - ② 土壌に関する特別報告書
 - ③ 海洋・雪氷に関する特別報告書
7. “地球温暖化”の主原因であるCO₂削減
 - ① 世界の目標
 - ② 日本の目標
8. CO₂削減の具体的な取り組み (金子が実施中の具体的事例紹介)
 - ① 楽しく節電
 - ② 食品ロスの削減 (自宅のできるコンポスト技術を正しく学ぼう！)
9. 講演会参加者の感想 (例:折尾東市民センター と 北九州市立大学・学生)
10. まとめ
くお知らせ
★ たらばるわくわく塾「土曜塾」が7月から開講します！
★ 生ごみコンポスト化容器活用講座 ～第1回目・7/20(土)、第2回目・8/3(土)
以上



本公開講座開催の趣旨説明&講師紹介
中島館長

< 特に重点的に説明した事項 >

1. 地球温暖化防止に向けて、我々一般市民のすべきこと…もっと、もっと、もったいないを習慣化しよう！（ローカルな活動）

・楽しく節電、食品ロスの削減、プラごみの削減…等 ～効果の確認には“見える化”が大切～

2. しかし、「悲鳴をあげている地球環境の実態」を良く認識しないとローカルな活動は長続きしない！（グローバルな活動）
従って「グローバルな活動」が重要です。（グローバル＝グローバル＋ローカル）

3. グローバルな活動で認識すべき事！

①「パリ協定」（2015年12月採択）では地球温度上昇を産業革命以降 2°C 以下（好ましくは 1.5°C 以下）にすることを目標に掲げています。

② しかし、ここ4～5年の温度上昇は急激で2030年には 1.5°C を越えそう！（世界の気象学専門家が指摘！）
↓ （既に2023年実績見通し：約 1.48°C ）

③ そこでIPCC（気候変動に関する政府間パネル）は2018年10月に、**地球温暖化「 1.5°C 特別報告書**」を公表し、
温暖化の危機を、再び警告しました。

4. 「気候危機」も「コロナ禍」も“人災！”……. 原因は地球温暖化、CO2削減が焦眉の急！

★ 生態系と人間の距離が縮まって来ている （例：熊、猿…等の人里への出没）

5. 人口の3.5%が変われば、地球を守るための変革を起こせる！ 出来る事から少しずつ！

★ 地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ !!



◎ 参加者の感想 （満足 16名、まあまあ 2名）・・・回収率100%

- ★ お疲れ様です。いつもありがとう。
- ★ 要らないものは買わない、ゴミを沢山つくらない、もったいないの習慣を身につける。
- ★ 私などの高齢者には課題が難しかった。すみません。
- ★ 環境問題では傍観者になってはいけないことを学びました。

- ★ 大変良かった。改めてECO生活考え直します。
- ★ 分かりやすかった。
- ★ 意識して行動することを改めて考えさせられました。大変勉強になりました。
- ★ まずは自分で出来ることを実行しようと思う。今やっている勿体ないよりも、もっとしたいと強く思った。
- ★ 良いお話。大変勉強になりました。有難うございました。

- ★ 大変お勉強になりました。今日は冷蔵庫の中をチェックしたいと思います。
- ★ 地球温暖化、食品ロス削減、非常に勉強になりました。今日より少しずつでも心掛けます。
- ★ なんとなく問題に感じていたことが数字やグラフで具体的に理解することができた。
身近な生活で、もったいないをもっと意識したい。

- ★ 地球環境の切実な課題に対して、先ずは自分の行動を変えていきます。（3010運動、生ごみコンポスト等）
- ★ 興味深いテーマで内容も分かりやすかったです。
- ★ 地球温暖化の事が良く分かった。動物たちもかわいそう！ 人間の身勝手に地球が壊れていく。

◎ 参加したい講座など、ご意見を記入ください。

・土曜講座に参加したい ・コンポストの講座には参加します。 ・足のフットケアなど

最近の本講座の開催実績(1)



悲鳴をあげている地球環境環境
～もっと、もっと、もったいないを習慣化しよう!～

日時	場所	主催者	参加者(人)
2024年 2月29日(木) 10:00～12:00	筒井市民センター (八幡西区)	生涯学習市民講座 文化セミナー ★	18
6月29日(土) 10:00～12:00	熊西市民センター (八幡西区)	熊西市民センター たらばる塾～公開講座 ★	20

★:北九州ESD協議会の出前講座



最近の本講座の開催実績(2) ～コロナ禍にあっても、今できる事を実践！～

悲鳴をあげている地球環境環境 ～もっと、もっと、もったいないを習慣化しよう！～

日時	場所	主催者	参加者（人）
2020年 10月8日(木) 10:00～11:45	本城市民センター (八幡西区)	北九州エンジョイント事業 かがやき塾(八幡西区) & 本城市民センター・本城校区まちづくり協議会の共催	約40
11月18日(水) 10:00～12:00	光貞市民センター (八幡西区)	光貞市民センター 「エコライフ・発進！」環境保全・地球温暖化 ★	16
11月7日(土) 10:00～11:45	熊西市民センター (八幡西区)	ESD推進いきいきシニア塾 “年長者の学びの会” (生涯現役・生涯学習)	約 20
11月 (各人が自宅で視聴)		地域共生教育センター（授業動画方式 60分） ～オンライン学習システムにアップロード～	受講者：285回 総再生回数：302回
2019年 11月8日(金) 13:00～14:30	北九州市立大学 北方 (小倉南区)	参考:コロナ禍が発生する前（2019年） 講堂で対面講義方式で実施	約 530
2021年 2月24日(水) 10:00～11:30	葛原市民センター (小倉南区)	葛原市民センター 「葛原気軽っちゃサロン」 ★	約 20
4月22日(木) 13:00～15:00	穴生学舎 (八幡西区)	北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 地域ふれあいコース	28
6月16日(水) 18:00～19:30	オンライン講演会	北九州ESD協議会 ★	約30 (全国)
7月12日(月) 13:30～15:30	牧山東市民センター (戸畑区)	牧山東市民センター ★	約30
10月 6日(水) 10:00～12:00	清見市民センター (門司区)	清見市民センター ★	約25名
2023年 7月11日(火) 10:30～12:00	リーセントホテル (小倉北区)	福岡県退職者連合北九州地域協議会	約40

★:北九州ESD協議会の出前講座



意識→行動→習慣が変わる！

変化	具体的な実施事項
意識が変わる	★ 今回（6/29）を受講して・・・ ・「地球温暖化」で地球が悲鳴をあげている実態を認識する！ ・「気候危機」も「コロナ禍」も “人災” 事実を知る！
↓	↓
行動が変わる	・もっと、もっと、もったいないを習慣化しよう！ （楽しく節電）（食品ロスの削減） （プラごみ、資源物） 出来る事を実践する！
↓	↓
習慣が変わる	・「節電」「食品ロス削減」の効果を確認、成果を実感する ・“もったいない”を習慣化する → 「ライフスタイル」の見直し！ ↓ ★ まず個人で！ 次にグループで！ ↓ そして地域で！ 北九州市全体で！ 周りに伝える！

★ 以下、講義用資料の一部をご覧ください

地球は先祖から受け継いでいるのではない、
子どもたちから借りたものだ。

アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ(1900年～1944年)
フランスの作家、操縦士。『星の王子さま』の著者。



★ 子どもや孫の世代の幸せを奪わずに、いまの私たちの幸せを追求する！

地球は何個必要！ ～もし世界人口がその国と同様の生活をしたら～

世界の人口:2024年5/19現在 約81億人、2100年109億人(42%増加)

★ 昔から1個の地球で
いろいろな生態系が安全に
暮らして来れた！



★ 地球の自浄能力
・熱気は海水が吸収
・CO2は森林が光合成
により酸素を放出

現在(2014年)



★地球は1個しかありません！
だから悲鳴をあげているので
す！
★地球上には人間だけが住んで
いるわけではありません！

日本人の生活をしたら…

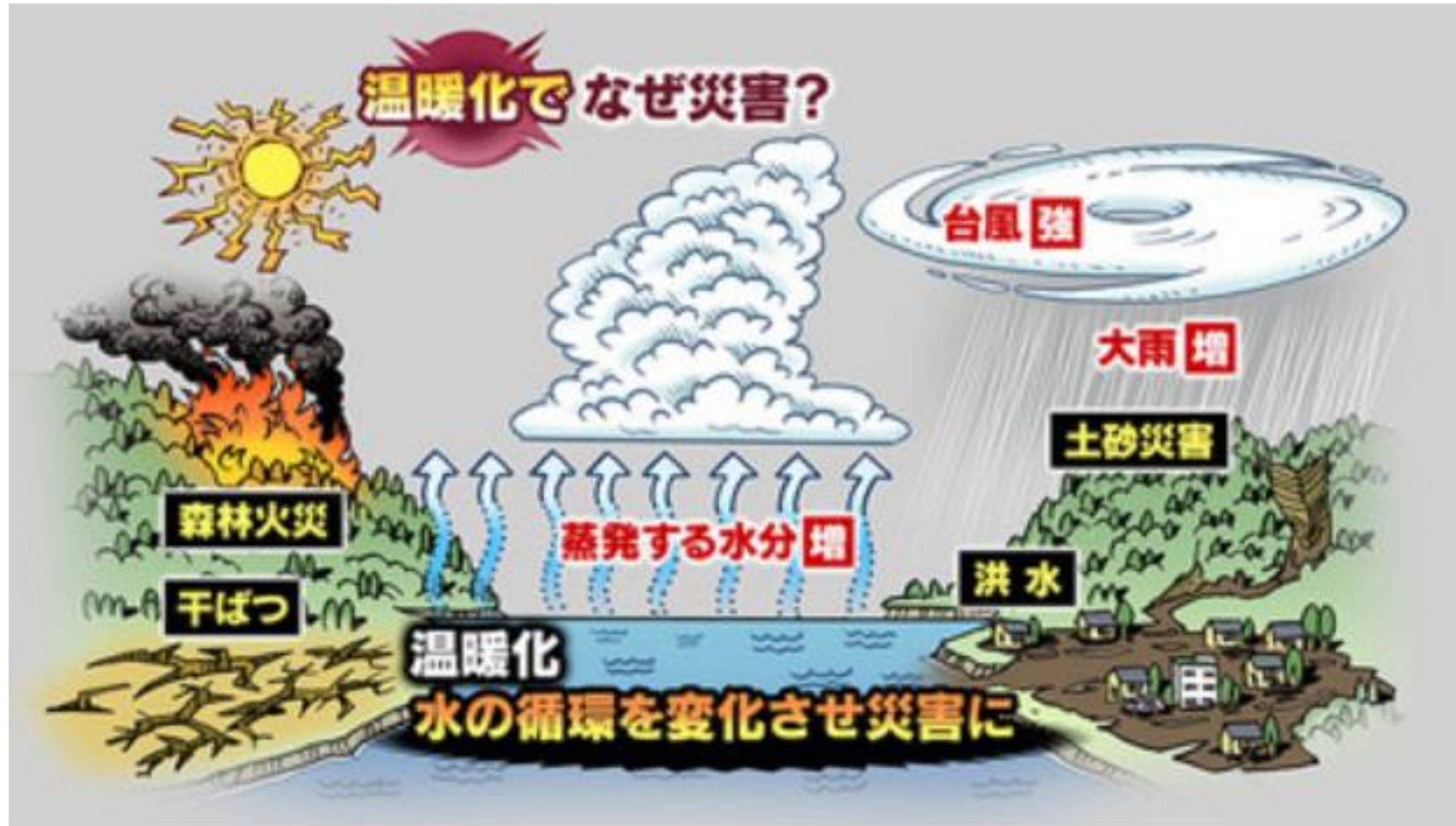


アメリカ人の生活をしたら…



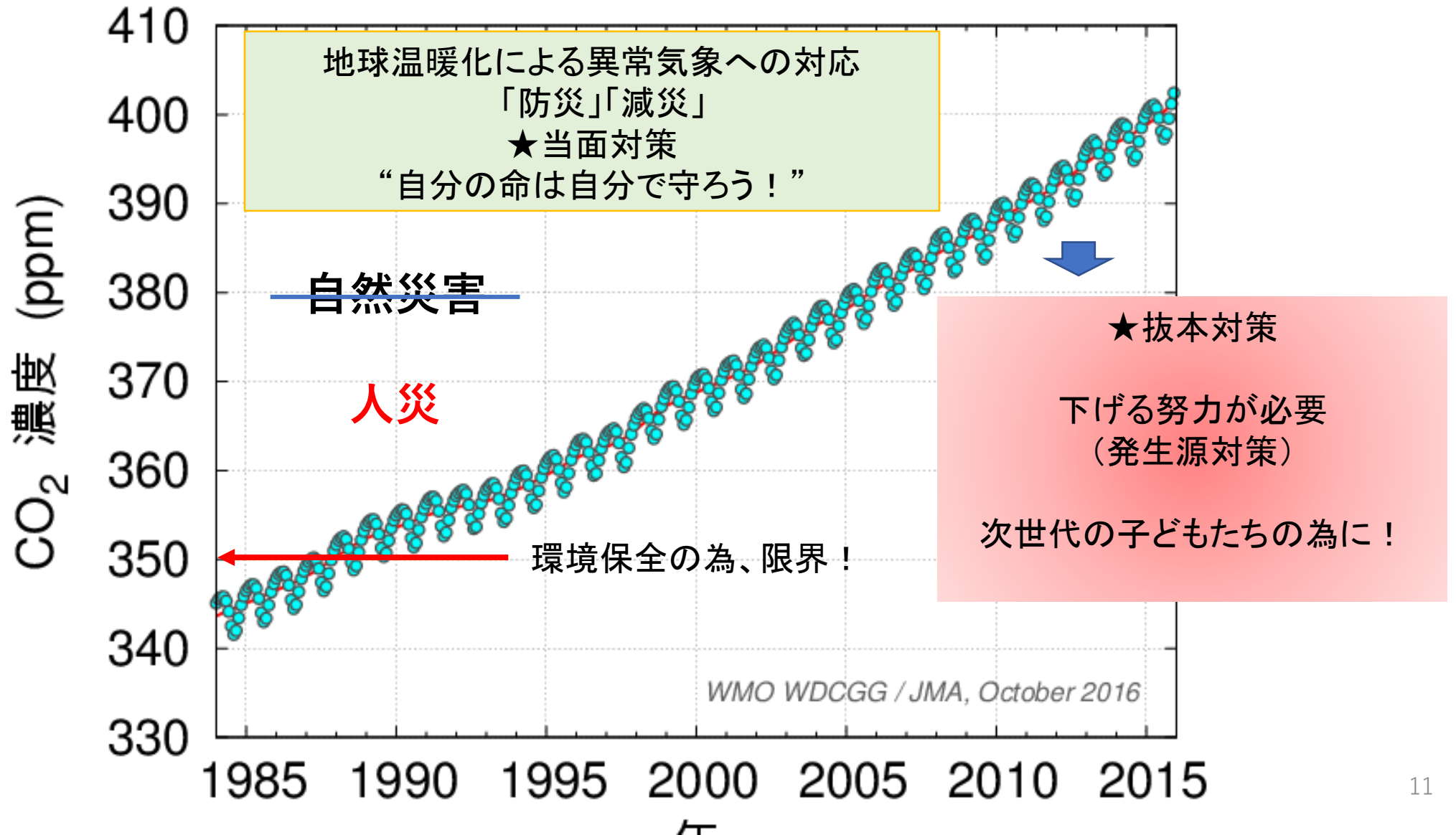
線状降水帯

蒸発熱が台風の引き金

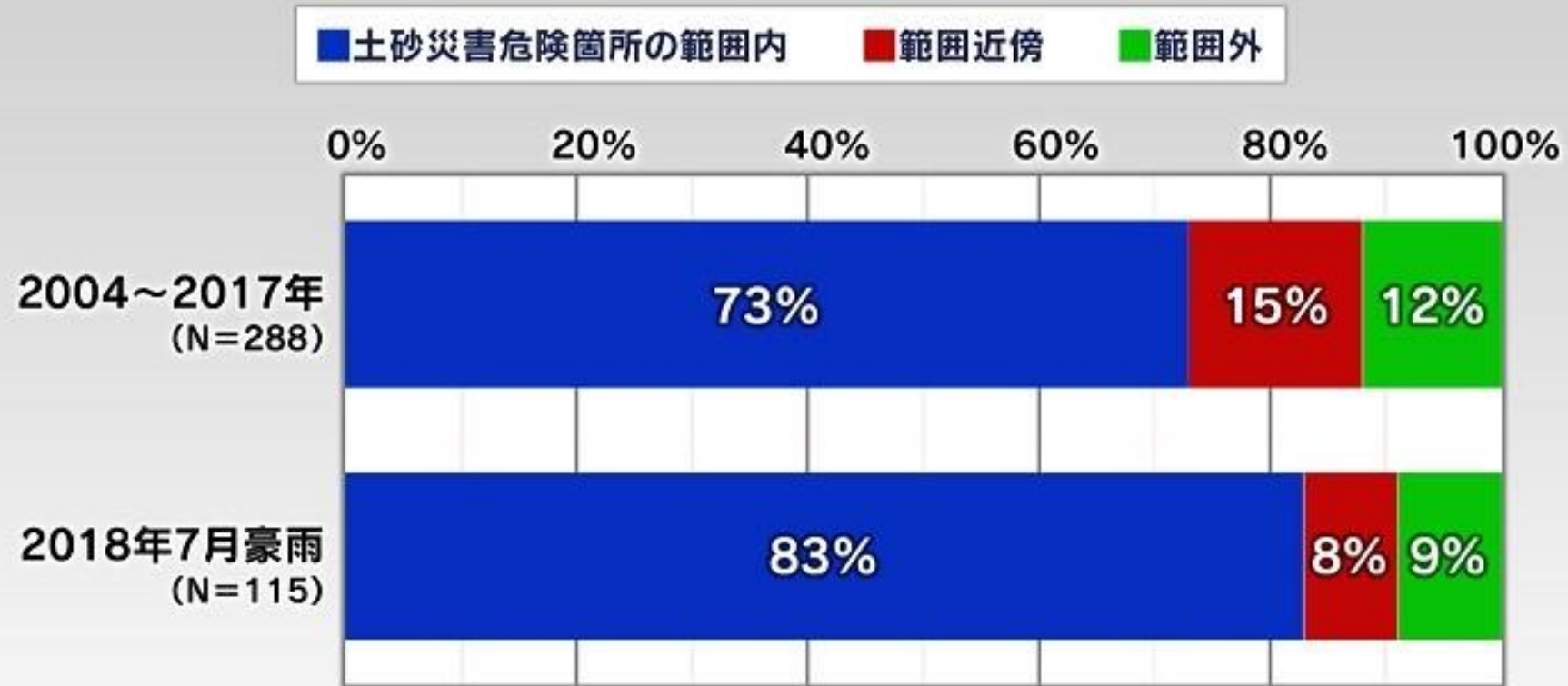


地球全体の二酸化炭素の経年変化

～ 2016年；大気中のCO₂濃度も記録を更新して400ppmを上回る！～



土砂災害の犠牲者がどこで亡くなったか



出典：牛山素行 他「平成30年7月豪雨災害による人的被害の特徴」

- ★ 誰があなたの命を守るか （2019年7/15 NHK再放送）
- ・約80%が自宅で亡くなっている。それも1階に集中！

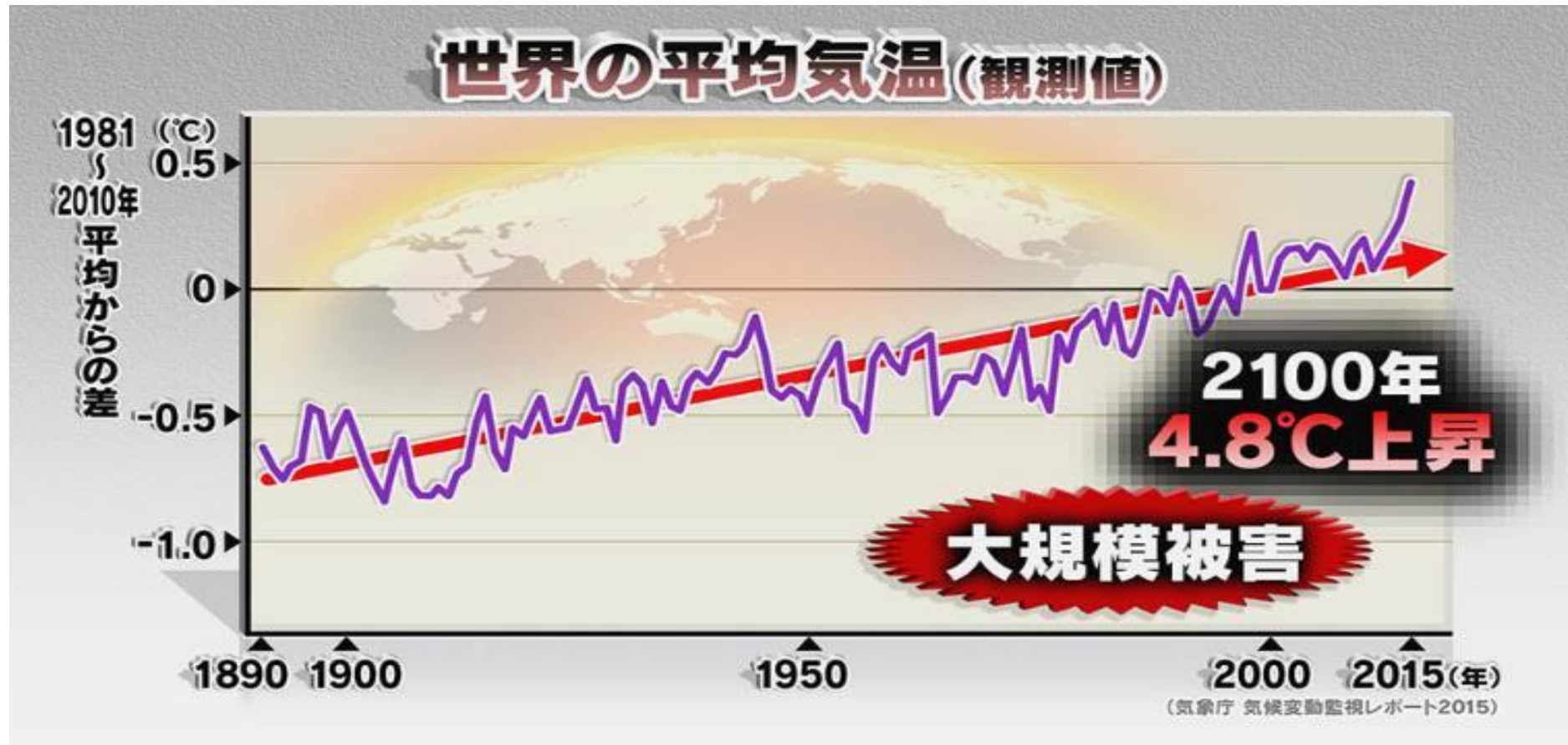


「温暖化から『気候危機』へ 急がれる対策強化」(時論公論)

2019年09月25日(水) NHK

注: IPCC:気候変動に関する政府間パネル

IPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change)



＜パリ協定の目標＞(2015年12月採択)

★ 2020年以降、産業革命後の平均気温上昇を2℃以下(好ましくは1.5℃)以下に抑えたい！

しかし産業革命(1770~1830年)以降で既に約1℃上昇している

★ このままでは2030年に1.5℃に達してしまう！

(2018年10月9日、NHK-BS放送)

“悲鳴をあげている地球環境” → 地球温暖化「1.5℃特別報告書」

◎ 「温暖化を止める技術は、すでに人類の手の中にある。ないのはやる気だけだ」

日本にいま必要なのは、まずは、本気で地球温暖化に向き合う「持続する志」ではないでしょうか？

＜ポッダム気候影響研究所・ヨハン・ロックストローム博士＞

“今後10年が未来を決める”

地球が“灼熱地球”に変化してしまう危険がある！

★氷の氷解

→ ★ メタンの放出

→ ★ 気温上昇

→ ★ 熱帯雨林の大火災

等

“ドミノ倒し”

＜座右の銘＞ アインシュタインの言葉

- ・悪い行いをする者が世界を滅ぼすのではない
- ・それを見ていながら、何もしない者たちが滅ぼすのだ！
- ★ 若者たちの最近の行動に期待する！



人物情報

1965年12月31日（53歳）

 スウェーデン



一人の抗議 世界に拡大

スウェーデンの16歳グレタさん



「気候のためのスクールストライキ」と書かれたボードを手に行進する

3面に
CU
クローズ
アップ

【ストックホルムで八田浩輔】気候変動の危機を訴える若者たちの抗議活動が世界規模で広がっている。そのきっかけを作り、国際社会の注目を集めるスウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさん(16)が毎日新聞のインタビューに応じた。グレタさんは「若い人たちは、私たちの未来が奪われようとしていることに怒るべきだ」と語り、各国が地球温暖化対策の新枠組み「パリ協定」が掲げる目標に沿う対策をとるまで抗議を続ける意思を示した。

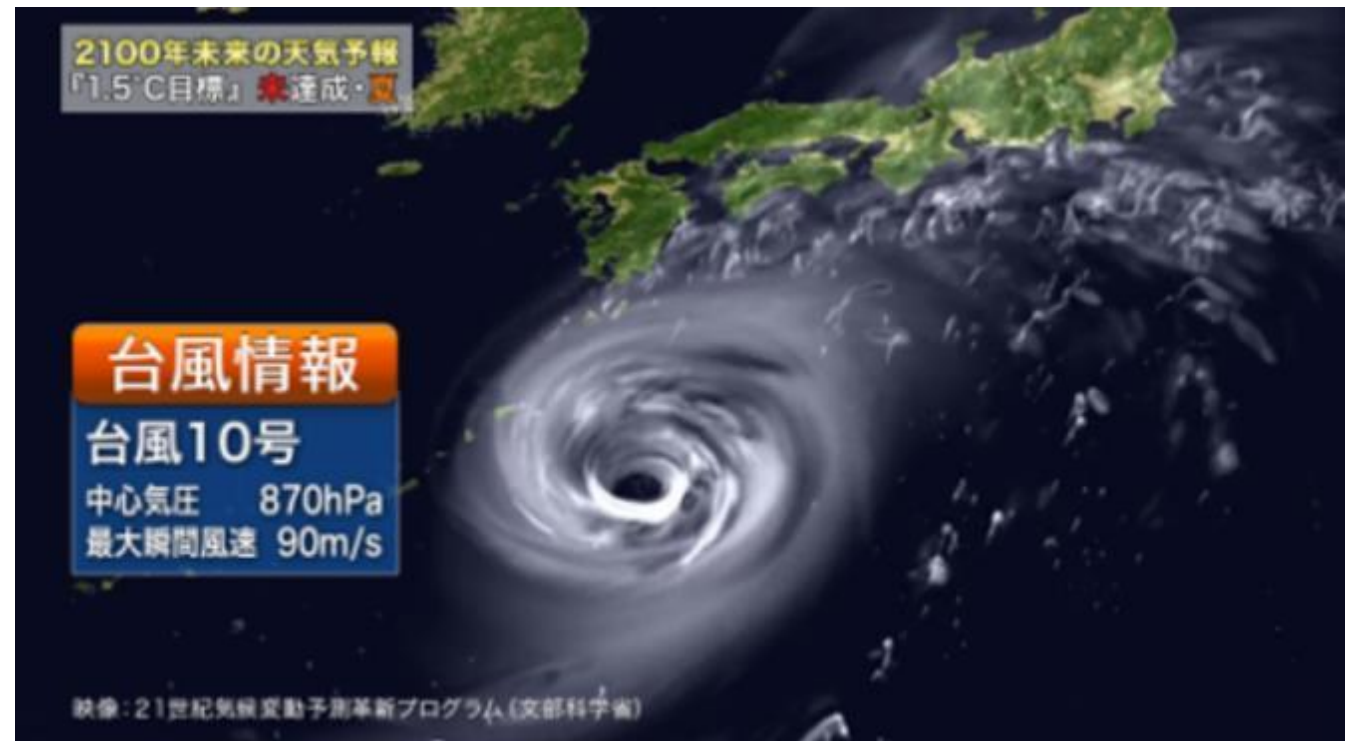
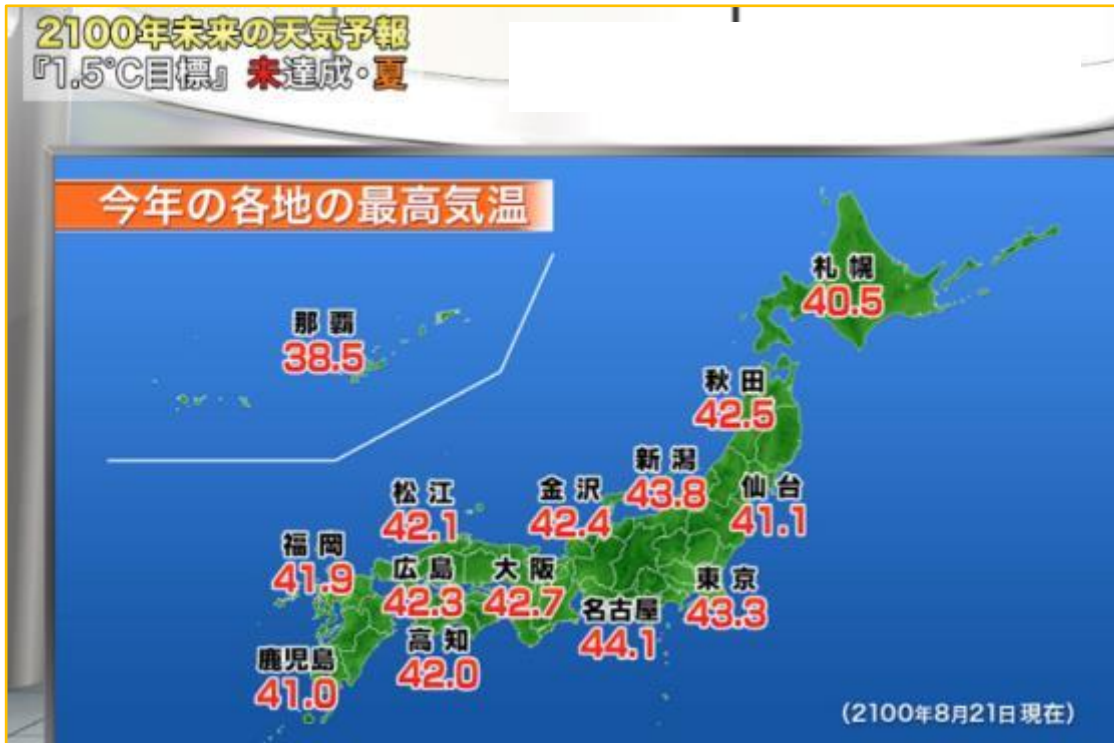
グレタさんは無名の学生だったが、たった一人で始めた

抗議運動が1年もたたないうちに世界中の若者らに拡大。学生たちが週に1度授業を休んでデモをする「学校ストライキ」が各地で起き、今年3

環境危機訴え「学校ストライキ」



環境省「2100年 未来の天気予報」



★ 2100年に『1.5℃目標』未達の場合の夏場

★ 生態系と人間の距離が縮まって来ている

- ★ もともと、山奥で暮らすクマと、人間社会との間には「里山」があって、そこが緩衝地帯となっていたが、
- ★ 過疎化などの影響で今は里山がどんどん荒廃していますので、それによってクマの活動範囲が広がり、目撃情報が増えているという根本的な問題があります。



★ 「アーバンベア」 (URBAN:都市の、都会的な)

★日本には本州と四国にツキノワグマ、北海道にヒグマがすんでいる。どちらのクマも本来は臆病で、人の気配がすれば逃げるか、やぶなどに隠れる。

だが、**アーバンベア**は、市街地周辺に恒常的に生息し、一時的に市街地に出没する可能性がある。人への警戒心が比較的薄い。

白昼堂々、庭先の柿の実など果実を食べにくる個体もいる。

(山崎晃司・東京農大教授も指摘する)



(例:熊、猿・・等の人里への出没)



出典:NHK暮らし☆解説 2020年9/15

<対策>

- ① 奥山の自然環境を取り戻す! (地球温暖化防止)
- ② 里山の過疎化防止 (都市部への人口集中対策)

★ 生態系と人間の共生社会の再構築!

6月5日は環境への意識を高める世界環境デー 2021年のテーマは「生態系の回復」

2019年3月の国連総会で、2021年から2030年を「**国連生態系回復の10年**」とすることが決まった。
国連環境計画(UNEP)と国連食糧農業機関(FAO)が主導する。

- | | ＜テーマ＞ |
|---------|---------------|
| ・ 2020年 | 生物多様性 |
| ・ 2019年 | 大気汚染 |
| ・ 2018年 | プラスチック汚染をなくそう |



★ 生態系の回復は、感染症の抑制、食料・栄養の安全保障の支援、気候変動の緩和・適応に寄与し、健康と幸福感に大きく貢献します。

また、生態系の回復は、災害の危険性を軽減するとともに、生活と健全な社会を支えます。

★ 国連の「生態系回復の10年」は、「**ワン・ヘルス**」と呼ばれる、人間、動物、植物、生態系の境界線における分野横断的な協力と関与を強化することを目的とした、WHOが主導する一連の共同作業の一環です。

★ コロナ禍は自然破壊と密接な関係がある
(豪雨・干ばつ・森林火災・・・)

新型コロナウイルスの起源は「中国の
コウモリ」だと考える研究もある。この真偽はまだ不明だが、
もともとウイルスは自然界の一部であり、これまでは自然界の
中でほぼ制御されていた。だが
人類が自然を破壊し、気候変動
が進んだ結果、ウイルスが突然
変異を起こし、動物を通じて人
類に悪影響を与えていることも
考えられる。いわば人類が自然
界に勝手に侵入した報いが、人
類に跳ね返ってきた形だ。

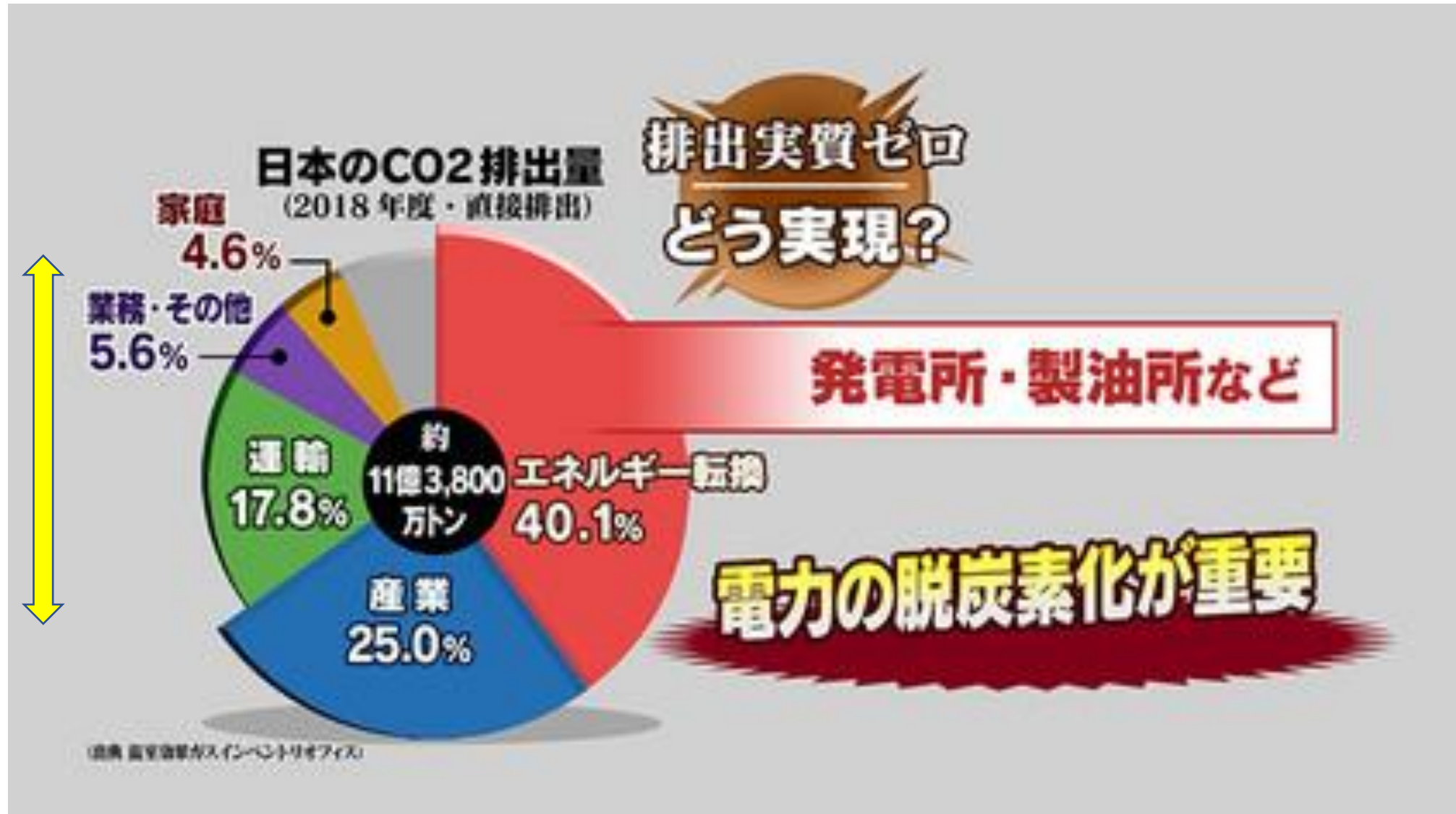
この状況が続けば、同じよう
なウイルスをコントロールする
のがさらに難しくなるのではな
いか。反対に人類が自然界への
介入を控え、生態系などのバラ
ンスが崩れないよう配慮すれ
ば、人々の健康を守ることにつ
ながる。

現代の世界では、ある国で感
染症流行や環境汚染、経済危機
が起きた場合、影響はその国だ
けに限定されない。人やお金は
国境を越えて行き交い、すぐに
グローバルな危機となる。コロ
ナ禍はそうした世界のネットワ
ークのもろい部分をまざまざと
露呈させた。だからこそ一つの
国が自国だけを守るという考え
方ではなく、世界全体が共通の
認識を持つ必要がある。私たち
は当面はコロナ対応に専念すべ
きだが、長年、自然環境が危機
にさらされていたことも忘れて
はならない。

★ 地球温暖化防止が焦眉の急！

元ブラジル環境相

マリナ・シルバ氏

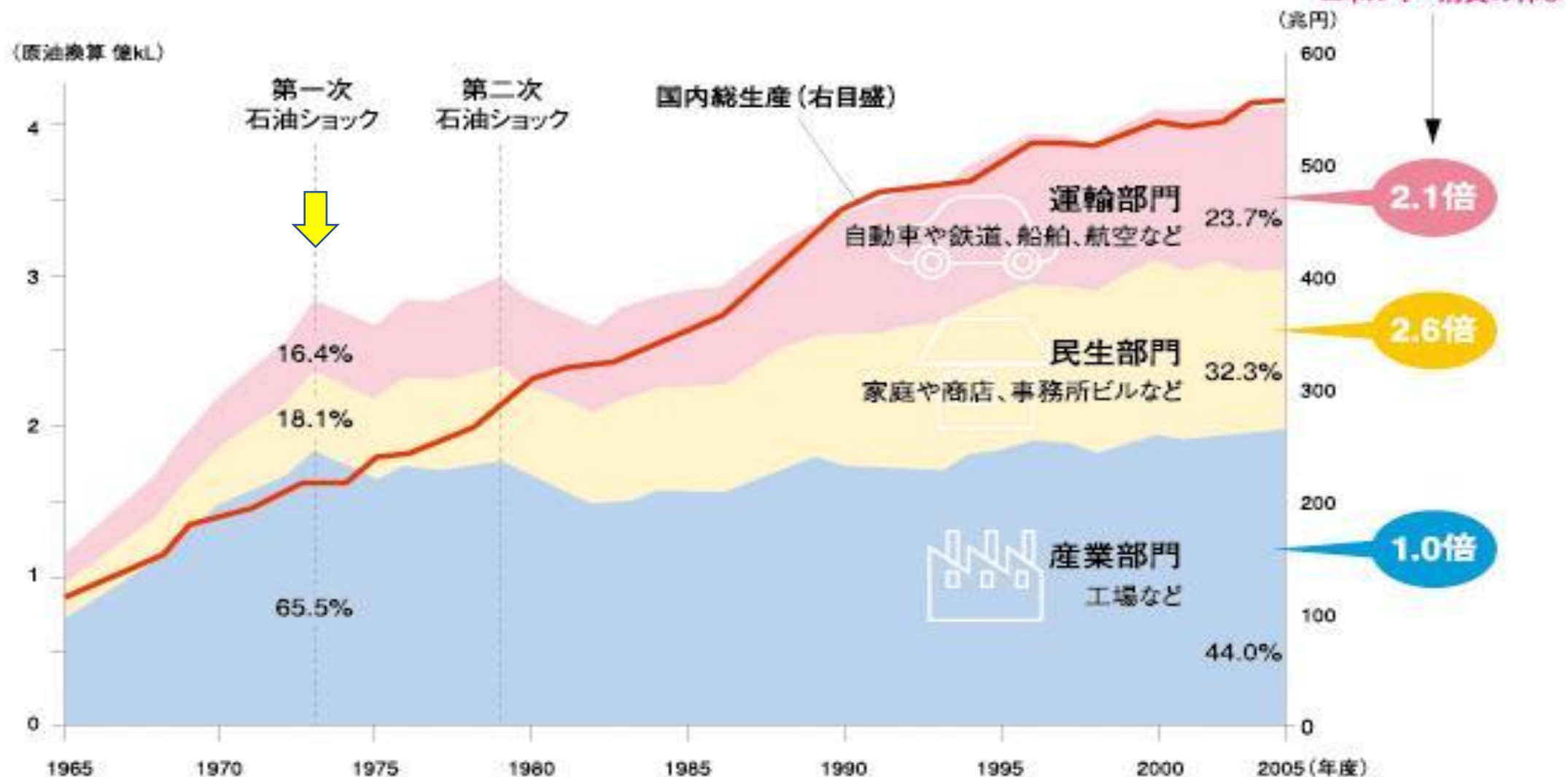


我々、一般市民で出来ること！

日本のエネルギー消費は、民生・運輸部門で増加

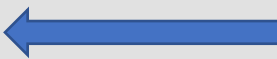
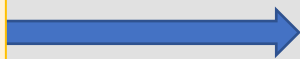
■ 日本の最終エネルギー消費とGDPの推移 (図-5)

出所:資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」、内閣府「国民経済計算年報」、(財)日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」

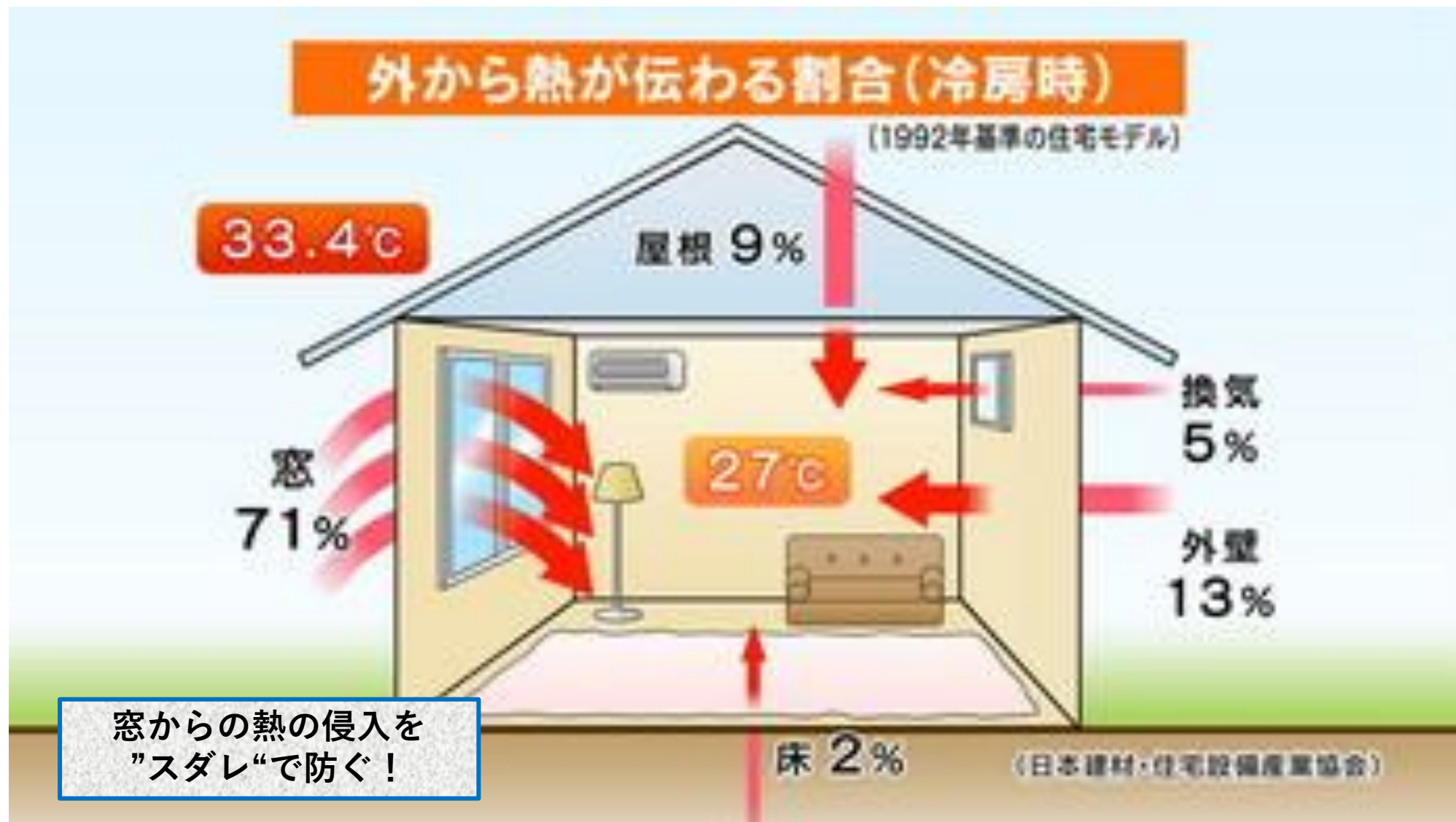


★ 各人の日頃の“もったいない”の習慣化が重要です！

「節電」の更なる推進:「乾いた雑巾」と「濡れた雑巾」

現状認識	“乾いた雑巾”状態	“濡れた雑巾”状態
意見・指摘	・今でも十分に節電は行っている。 ・役所、デパート、学校・・・等で真剣に実施中！ ・これ以上は節電は出来ない！ ・昔の時代に戻れというのか？	・空調機の管理はどうなっていますか？ (誰が、何時、どのように点検し、その記録は？) ・空調機の設置場所は今の場所で良いですか？ ・ダクトは閉塞していませんか？ (省エネ診断員の指摘)
「節電」	 具体的行動に到らない！	・まだまだ数10%の「節電」は十分に可能！ ・脱原発の為にも、各人が身近なところで「節電」を徹底的に推進することが重要！
	 ギャップが大きい！ 	

“節電”のポイント 各部位から熱が室内に伝わりますが、その約7割は窓からです



ま と め



1. 悲鳴をあげている地球環境 → “自分ごと” とする

～気候危機もコロナ禍も “人災” であることを認識しましょう！～

2. 身近な生活の中で、もっと、もっと、“もったいない”を習慣化しましょう！

(楽しく節電、食品ロスの削減 等)

3. 諸活動を推進する際には “見える化”を心掛けて、継続的に推進しましょう！

4. 人と生態系の距離が近すぎる！ → 生態系の回復(国連の2021年～2030年の環境目標)

5. 地球は先祖から受け継いでいるのではない、 子どもたちから借りたものだ。

6. 人口の3.5%が変われば、地球を守るための変革を起こせる！ 出来る事から少しずつ！

★ 住み易い地球環境を取り戻しましょう！

★ 環境破壊の前には全員が敗者になる！！

～毎日新聞一面 “余禄” 2024年2月5日(月)～